

恵山の火山活動解説資料（令和4年11月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①、図3）

15日に現地調査を実施しました。前回（2021年10月）の観測と比べて、X火口及びY火口の噴気温度に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-②～③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-④）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和4年12月分）は令和5年1月12日に発表する予定です。

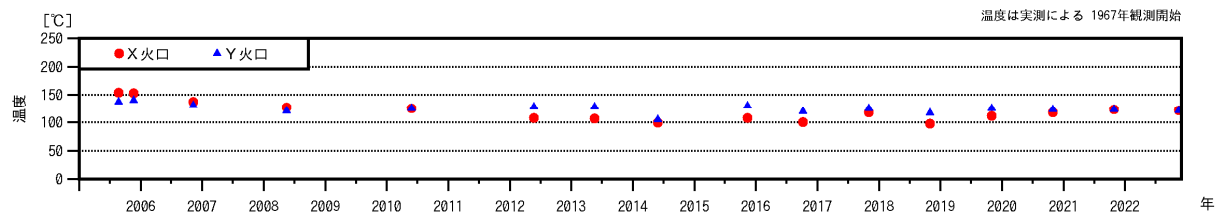
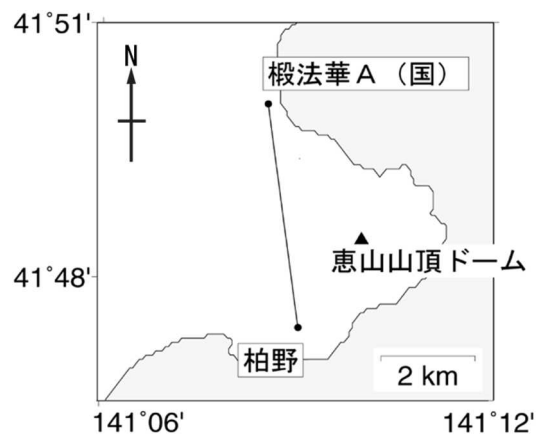
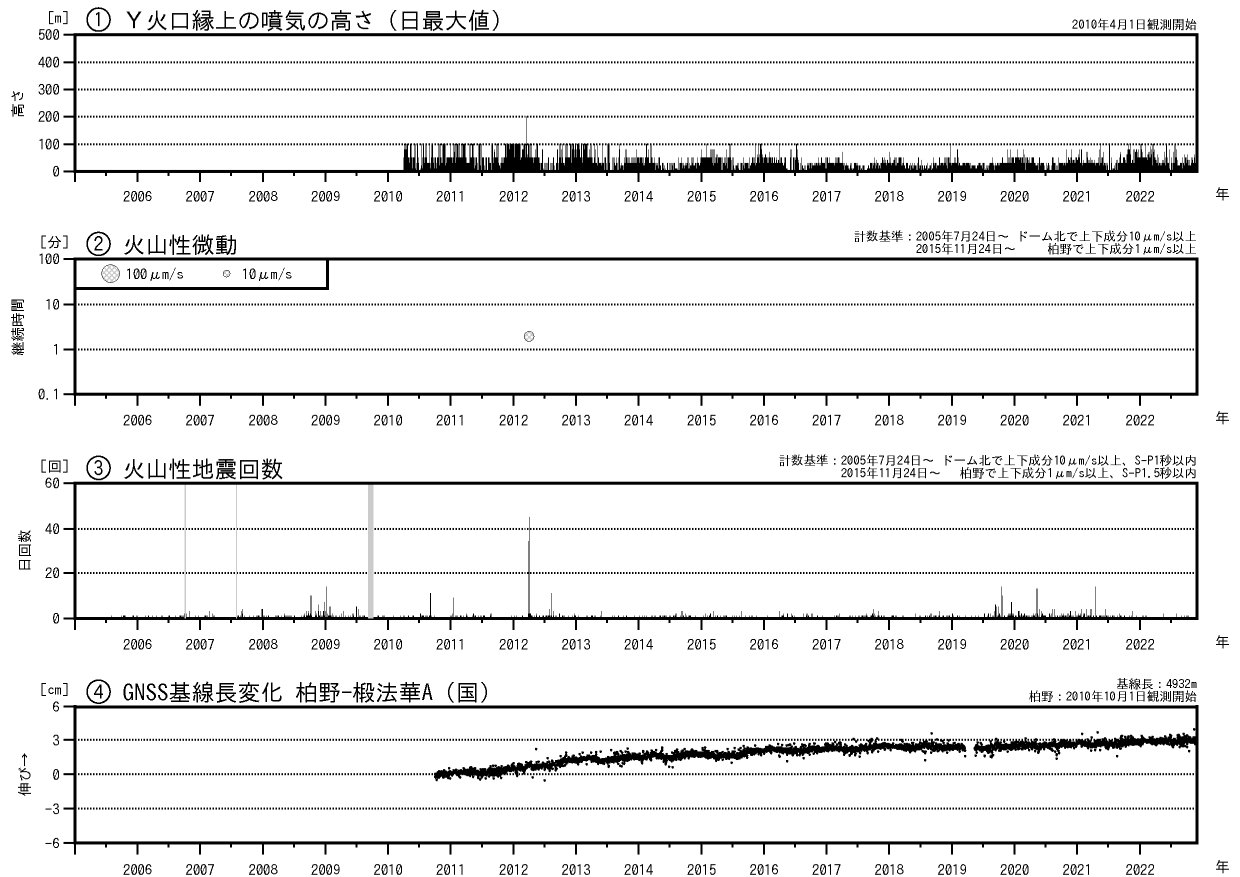


図1 恵山 X火口・Y火口の噴気温度（2005年～2022年）



GNSS 連続観測基線図
（国）：国土地理院

図2 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2022年11月）
③の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。
④のグラフは上図の基線に対応しています。
④のグラフの空白部分は欠測を示します。



図3 恵山 西南西側から見た山頂部の状況（高岱監視カメラによる）

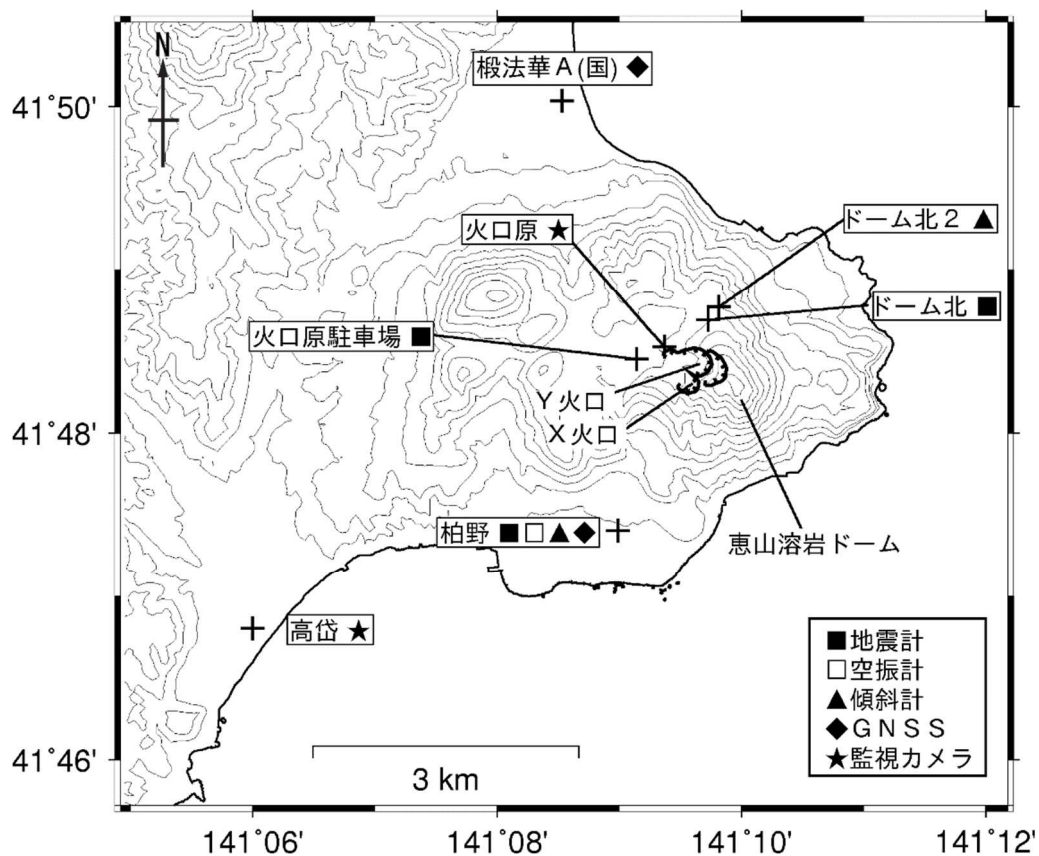


図4 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院